



◆ 「紙の本」と「デジタルの本」、どちらを利用しますか？

前号で紹介したインターネットの電子図書館「青空文庫」のように、スマホやタブレット、パソコンなどで読む本を「デジタルの本」（または、電子書籍）といいます。「デジタルの本」は、ネットで購入することができ、昨年度は、市場の2割を占めました。「デジタルの本」は、置き場所をとらず、スマホなどに入れてたくさん持ち歩けるというメリットがあり、利用が増加しています。「紙の本」は利用されなくなってしまうのでしょうか。

◆ 幼児期の読み聞かせは絵本（紙の本）が最適

幼児期の読み聞かせは大切です。特に、絵本（紙の本）の読み聞かせが「非認知能力」を高めると言われています。「非認知能力」とは、やりぬく力、がんばる力、くじけない心、思いやり、コミュニケーション能力などです。幼児期に育てることで、生涯を通して役に立つ能力となります。最近、スマホやタブレットを育児に利用する「スマホ育児」をする人もいます。「スマホ育児」にも良い面はありますが、スマホの使いすぎは問題です。できるだけ短時間にして、その分、絵本（紙の本）の読み聞かせを行いましょ。幼児期だけでなく、小学生になってからも読み聞かせは効果があります。



◆ 読解力は「紙の本」で育つ

読解力とは、「文章を読んでその内容を理解し、自分の頭で考えて利用できる能力」のことを言います。様々な研究によれば、「デジタルの本」よりも「紙の本」の方が、読解力が育つとされています。特に、小学校低学年など、本を読み始める時期には、「紙の本」の方が適しており、集中力も育つと言われています。



◆ 「紙の本」も「デジタルの本」もどちらも大切



国際調査で日本の子供の読解力が弱いと言われました。弱いとされたのは、「デジタルの本」を読む読解力のことです。「紙の本」で読解力は育ちますが、「デジタルの本」に慣れていないと、「デジタルの本」を読みこなすことはできません。世界の主要国では、積極的に「デジタルの本」を読む力を育てています。世界では、「紙の本」も「デジタルの本」も、どちらも同じように読みこなすことが求められています。

◆ 1人1台端末で読解力（バイリテラシー）を育てる

1人1台端末での学習が始まると、「紙の本」と「デジタルの本」を使い分けて学習するようになります。学校では、子供たちが「紙の本」も「デジタルの本」もどちらも読みこなせるように、読解力（バイリテラシー）を育てていきます。

※ バイリテラシーとは、紙でもデジタルでも同じように読みこなす読解力のことを言います。

※ 笠間市では、本年1月から電子図書館がスタートします。子供たちにも「デジタルの本」を読んでもほしいと思います。次回は、笠間市電子図書館の利用の仕方を特集します。